

# 舟形石棺って何？

舟形石棺とは、古代時代の棺の一つです。身と蓋を合わせた断面は楕円形をしており同様の方法で作られた割竹形石棺より安定性があり、両端が斜めに切られている形状が船に似ていることからこの名称が付いています。



平塚古墳

割竹形石棺の変容型と目されており、縄架け突起がつけられていたり、石枕が作り出されていたりします。主に4世紀中葉—6世紀前葉に熊本・佐賀・宮崎・香川・島根・福井・群馬・茨城などの各地で在地の石材を用いて首長の棺として造られ、各地に普及しました。

舟形石棺は、大きな石材をくりぬいたものです。また、どこからこの形が生まれた、伝わったという情報はひとつもなく、謎に包まれたままです。



平塚古墳

尾崎先生の発掘された平塚古墳（1957年・昭和32年に発掘された）からも舟形石棺が2つ見つかっています。